

「働くを創造」する。労働不足解消から挑む公民連携の新たな取り組み

取組主体：株式会社タイミー/ 栃木県日光市

コロナ禍以降に急拡大した観光需要や、市内の慢性的な人手不足に対応するため、包括連携協定を締結。市内事業者に対してスポットワークを通じた労働不足解消を提案するとともに、地方の労働市場に対して新たなアプローチを公民連携で行なった。連携を進める中で、新たなチャレンジにもつながるきっかけとなり、共創から地域への新たな価値提供が生まれている。

課題
や現状

- 栃木県日光市は、観光入込数1,200万人（R元年度）の観光地としてのポテンシャルを持つ観光地
- コロナ禍の離職や、生産年齢人口の減少(2005→2020で、-28.5%)により、労働力不足が顕在化していた
- インバウンドやコロナ禍後に回復した観光需要に対して人手不足感が深刻化
- 介護・交通・運輸など特定業種などへの不足感や、女性活躍・障害者雇用など特定課題など問題は複雑化
- 一方、労働力が市外へ流出していて(15歳以上就業者数が市内事業者数を上回る)、市内の労働力ポテンシャルは存在した
⇒【労働力不足】と【働く場所(業種)不足】

解決策や
アイデア

- そのためには既存の採用方法に加え、市内の「潜在的な労働力の掘り起こし」が必要と考えた
- その1つとして、「シェアリング」の視点が解決の糸口になり得ると想起
- 具体案①仕事のシェアリング⇒業務を細かく分解することで熟練度に合わせた労働力をマッチング
- 具体案②労働力のシェアリング⇒柔軟な働き方を推進することで、新たな働き手を確保
⇒しかし、実現するためにはノウハウやツールが必要
- 利用率No.1のアプリサービスを提供しているタイミーと連携することで、共創が可能になる
- 業務の切り出しやお試しの就労、アプリ上で休眠労働力も掘り起こすなど、地方への横展開を行う

取組状況
や成果

- セミナー開催や労働政策を共創することで、スポットワーク(スキマバイト)の普及を実現
- 2024年12月時点で305拠点(前年同月比で2.2倍)の累積事業者数や、1,052人(前年同月比で1.8倍)の累積ワーカー数など着実に浸透し続けている

取組の詳細① タイミーとは

- 全国的にも、地域の中で労働力をシェアリング＝潜在労働力の掘り起こしを行い、利用実績が広がっている
- タイミーは「スキマ時間」をマッチングすることで、1日・1時間単位～働ける
- 幅広い属性の働き手の方や、さまざまな業界で活用が広がり続けている ⇒スポットワークの浸透
- スキマバイトサービスとしては、利用率No.1※として多様な働き方・柔軟な働き方を広めた実績を持つ
- スキマなら働ける「潜在労働力」の市場にリーチすることで、利用も増加。全国で1,000万人以上のワーカー数
- 観光地のスポット的な仕事も増えている（2024年10月時点でホテル業界での導入が全体8%に増加）
- 登録ワーカーの属性としても、社会人経験がある方で半数以上と、子育て世代やシニア世代などにも広がっている

■ タイミーとは

⇒ 地方創生にも貢献できる可能性を信じ、
自治体連携で社会課題にアプローチ

従来の「求人サイト」でも「派遣」でもない

「働きたい時間」と「働いてほしい時間」を
マッチングするスキマバイトサービス



■ 導入実績

■ 登録ワーカーの属性

■ 導入事業者の業界属性

スキマバイトサービス利用率No.1

導入事業者数^{※2} ワーカー数^{※2}
159,000社 **1,000万人**

年代、職業問わず幅広い属性が利用

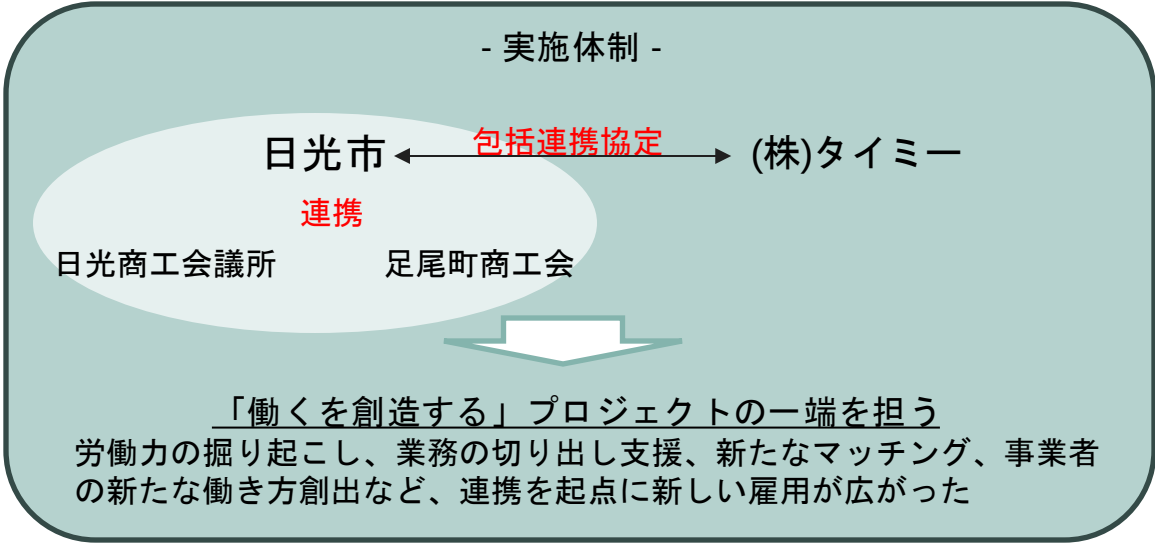


物流業や飲食業、
小売業をはじめとして、
多種多様な業界の
事業者様が活用

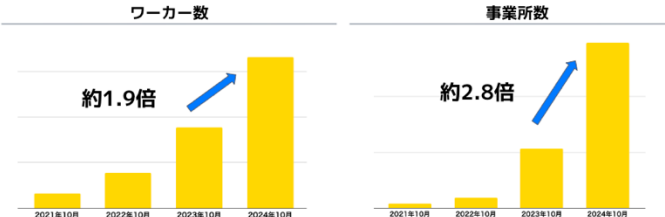


取組の詳細② 実施体制や概要について

- 栃木県日光市と株式会社タイミーは包括連携協定を締結(2024年5月)
 - ▼ 締結後の実施事項
 - ① 事業者向けセミナーを行い、市内事業者の仕事のシェアリングノウハウを伝達
 - ② 栃木県内初の連携協定という話題性を活かし、周知広報を実施
 - ③ セミナー実施にあたっては、日光商工会議所・足尾町商工会とも連携し、一体となって展開
- 事業者数(直近1年で約2.8倍)・ワーカー数(同約1.9倍)に増加 ⇒ 市内事業者での活用が進んだ
- 地場企業でも導入が進み、アプリ上に日光市ならではの仕事が掲載され、ユーザー体験が向上
- 事業者年に数回必ず働きに来る遠方のワーカーが生まれる好循環なども生まれ、関係人口構築にも寄与



対象事業者	市内の事業者様向け
内容	スポットワークの紹介や導入事例のセミナー
結果	約20名参加 セミナー後無料登録会には15名ほどが参加



取組の詳細③ 「働く」をシェアリング

- 公民連携を通じて、民間ノウハウ(タイミー導入によるスポットワーク浸透)を提供 ⇒ 労働のシェアリングを実現
- 具体的な切り口としては以下の2点から始めることを重視した

仕事(業務)のシェアリング

仕事のシェアリング = 業務の切り出し

- 初めて勤務する人でも活躍できるように、予め担当する仕事をマニュアル化しておく必要がある
- ところが、この部分を仕組み化するのは第3者的な視点や専門用語の解説も必要で、通常の業務の中で行うにはややハードルが高い
- 公民連携で切り出しの意義や好事例を紹介
- セミナー等を通じてタイミーが専門的な支援を展開

＜参考＞介護事業所内での業務切り出しの例(資格の有無や経験値で細分化)

タイミーワーカーに任せている業務例

※フーカ一のスバル：経験以外にも利用者の要支援/介護度や生活習慣などにも影響を受けるため、程度調整が必要です。

[illegible]

(注) ソフトウェアに関する権利を侵害している状態（注）の項に該当しているソフトウェアの類と見做し、当該侵害一環している状態を当該のソフトウェアのバージョンを削除し、権利を返す。

労働力のシェアリング

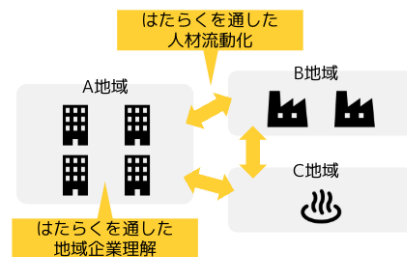
- セミナーと合わせてアプリの登録会も同日開催すると、7割以上の方が残ってサービスを導入していただいた
- まずは市内事業者への周知を広げ、地域ならではの仕事をアプリ上で掲載⇒**地域活性化や産業振興を実現**
- 今後は、**世界遺産での就業体験**など、公民連携だからこその特徴的な求人も紹介を調整
- 片道2時間以上の距離でも定期的にマッチングが起きるなど**市内事業者の好事例**もすでに生まれている

地域内人材の流動化

スポットワークが、あまり馴染みのない地域へ訪れるきっかけとなる

地域外人材の流入

単一のプラットフォームだからこそ地域外の人材であっても流入しやすい



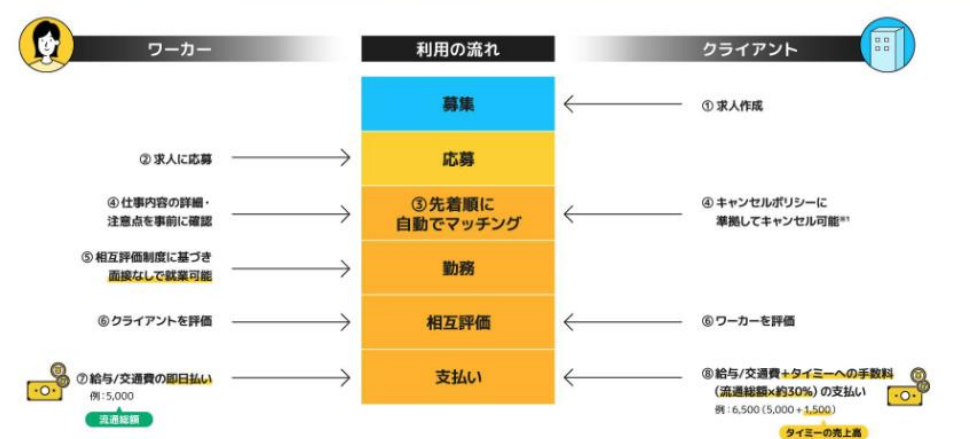
※ バイクで日本一周をする旅人に、タイミーの使い方を聞いてみた：[LINK](#)

公民連携の強みを活かし、地域の課題感に応じた解決策をスピーディーに提供

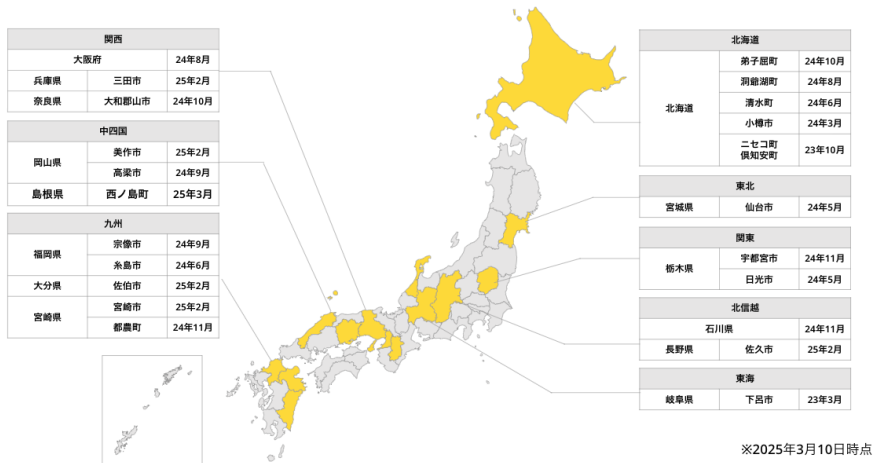
持続可能な取り組みとするためのポイント

- 既にあるサービスを活用しているので、**予算がかからない** → 人を集める・マッチングする点で優位性がある
- (日光市)総合企画部を窓口にして、全体を俯瞰した指揮系統を敷ける
- (行政側)連携協定を起点にした取り組みのため、**予算化が不要**なく素早い動き出しが可能
- (タイミー側)連携の窓口が地方創生に特化した部署のため、政策や課題感に寄り添った対応が可能
⇒協定を起点に取り組みを始めるため、**地域が抱えるの労働課題の具体的なテーマ**で連携が始められる
- スポットワークが地域内に広がると、さまざまな産業での活用が広がる可能性
→通年で仕事のシェアリングが可能になる
- さらに、子育て世代、シニア世代などさまざまな属性の**シェアリング**も実現することができる
- 発展的な観点としては、**地域間のシェアリング**も進み、例えば栃木県内の発展性もあり得る
- 県内に留まらず、**タイミーは全国の自治体と多様なテーマで連携**を行っているため、事例の共有や横展開がしやすい

ワーカー・クライアントの利用の流れ — はたらくをよりシンプルに



タイミーが連携協定を締結している自治体：14道府県23自治体



※1: 相互レビューにおけるGood率が80%以下、ペナルティポイントが4ポイント以上、求人記載の条件を満たしていない等

- 今回の取り組みを経て改めて感じた部分としては、潜在的な労働力はシェアリング文脈で掘り起こせる
- 地域内でも、産業の繁閑期での労働力シェア・近隣の地域のシェア・雇用の流動性多様性のシェアなども考えられる
- この取り組みは全国に広がり、ネットワーク効果も期待できるため、発展性も十分にあり得る
- 全国1700以上の自治体でできれば究極のシェアリングが実現すると考える



1つの事例から、地域内での広がりや全国への横展開など、「働くシェアリング」が未来を動かす